

ヨハネの福音書 第14章 6節

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』」

疑い迷い問う者にイエスはこたえる。問う者は少なくとも数年間はイエスといっしょにいた者である。それでも疑いは消えず、迷いは消えず、問うばかりである。たとえ長くいっしょにいて、食卓を囲んできた者でも払拭されない疑い迷いのところがある。彼だけの問題ではない。こころのおさまりがつかない人の実像である。その代表者である者にイエスは言うのである。

なぜ疑い迷い問うのか、とは言わない。わたしが道です、と断言する。道は歩くところである。歩くことでわかる道である。その道を歩くとき、わたしと言われるイエスがわかってくる。その道をたどることで真理がなにかわかってくる。そして、その道を生きるときにだけいのちがわかる。その道になってくださるのがわたし、と宣言された主イエスである。

道となってくださった主イエスの愛と恵みを味わいつつ歩む。そうすれば、だれひとり残さず、父なる神のみもとに来ることができる。行くのではなく、来るとあるのは、父なる神はそれほど私たちを待っておられる。主イエスのいのちを注いでまで。

2023年8月24日